シュプレヒコール裁判勝利にあたって

本日、東京地方裁判所は、われわれが提訴した損害賠償等請求事件（「平成１７年（ワ）第２５７８４号事件・通称シュプレヒコール裁判）において、われわれの全面勝訴の判決を言い渡しました。被告ＪＲ東海ユニオン本部・新幹線地本・東京運輸所分会は、この判決を真摯に受け止め、ただちに慰謝料を支払え！

シュプレヒコール裁判とは、２００５年９月下旬、ＪＲ東海ユニオン東京運輸所分会が掲出した掲示内容は、著しい名誉毀損にあたるとして損害賠償を求めて提訴した裁判です。

ＪＲ東海ユニオンは、「東海労…断末魔の叫び？！」という見出しで組合掲示を掲出し、「『ＪＲ東海をつぶせ！』とシュプレヒコールをしながらデモをする東海労…世間一般的感覚からすれば、社員が自分の努める会社をつぶせと声を上げながらデモする組織を普通の労働組合だと思うだろうか？！」と事実無根の記事を載せました。あたかも、われわれが「ＪＲ東海（会社）をつぶせ！」と主張したかのようにデッチ上げ、誹謗・中傷したことに対して、名誉を著しく毀損し多大な精神的な苦痛を負わせたことに対する謝罪と損害賠償を求めた裁判です。

本件で問題となった、伊那松島での抗議行動の状況は、「内部告発」によって送られてきた、ビデオテープ（会社が撮影し、社内教育で使用しているもの）を見れば一目瞭然です。われわれは、一切「ＪＲ東海をつぶせ」とシュプレヒコールなどしていません。何でＪＲ東海をつぶさなくてはならないのでしょうか。国鉄改革を血と汗と涙で担い、新生ＪＲをスタートさせたのはわれわれです。それを邪な権力と金の亡者・葛西副社長（当時）の野望によって踏みにじられ、会社は人間味のない異常な会社にされました。われわれはそのような会社私物化、野望と闘ってきました。何故なら、働く者にあたたかい「ＪＲ東海」をつくるために必要だからです。

ＪＲ東海ユニオン指導部は、会社と一体になって、あたり前の運動を進める労働組合、会社にもの言う労働者を攻撃し、自らの組合員をも会社に売り渡しているのです。会社を一度も批判したことのないＪＲ東海ユニオン指導部は、常に自らの利益のために愚行を覆い隠し、組合員の目を他にそらせるために他労組批判を繰り返しています。このことがＪＲ東海ユニオンの唯一の活動と言っても過言ではありません。まさに会社の代弁者としての役割をしているのです。

ＪＲ東海ユニオン東京運輸所分会によるシュプレヒコールのデッチ上げは、われわれが、全ての社員を代表するかたちで一方的な休日出勤に反対し、その闘いをつくり上げている最中でのデッチ上げでした。あきらかにデッチ上げによって「悪者」に仕立て上げ、闘いの拡がりを圧殺することが目的でした。

「ウソやデマなど何でもやりたい放題！」といい気になるな！悪は必ず滅びる！いや、われわれの正義の闘いによって悪を根絶する！

判決は当然の結果です。判決によって、ＪＲ東海ユニオンはウソとデマで塗り固まった「労働組合」であることが満天下に証明されました。

われわれは、このような会社の意を汲んだデッチ上げを絶対に許さず、まじめなＪＲ東海ユニオン組合員に、真実を広めＪＲ東海労へ結集することを訴えよう！

２００７年１０月３１日

ＪＲ東海労働組合中央闘争委員会